

# コミュタン福島における取組

福島県環境創造センター総務企画部

福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」は、放射線に関する正確な理解を促進し、また、原子力災害を経験した福島県の現状を伝えることを目的とした展示室等を備えた施設として、2016年7月21日にオープンした。

放射線や原子力災害を受けた福島の状態についての理解不足に起因する風評や不当な差別など福島で生まれ育つ子どもたちが今後も背負う問題を解決するためには、放射線や福島の状態を子どもたち自身がきちんと理解し、自らの言葉で伝えることが必要のため、「コミュタン福島」では体験型の展示やスタッフとの対話を通して、それらを主体的に学ぶことができる。

## 放射線や福島の状態について、子どもたちが主体的に学べる施設 **コミュタン福島**



コミュタン福島 外観



原子力災害について学ぶエリア



放射線について学ぶエリア



ドームシアター外観(左上)

### 子どもたちをターゲットにしたコミュタン福島における学習

子どもたちが主体的に学べるように、

- ・ **体験型の展示**で、子どもたちの興味を喚起
- ・ **対話を重視**したハードとソフトで、コミュニケーションの促進

#### 展示での学習内容

- ・ 原子力災害、放射線の基礎知識
- ・ カーボンニュートラルなどの地球温暖化対策
- ・ SDGsの概要と各ゴールに関連した展示

#### 実験講座の内容

- ・ 身の回りの放射線の測定
- ・ 霧箱で放射線の性質の観察
- ・ 再生可能エネルギーによる発電体験



観察する



360°の映像・音響



運営スタッフと

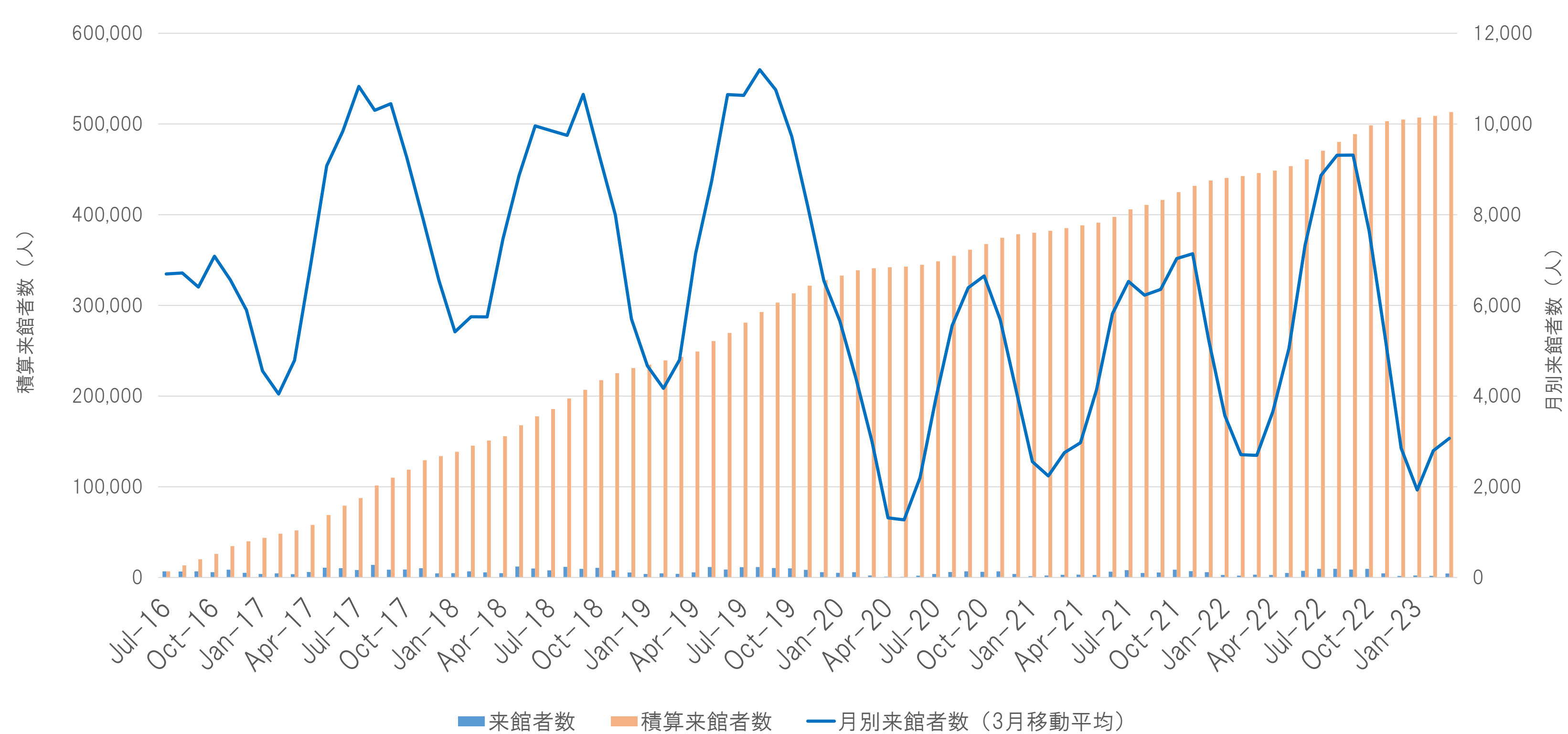


実験講座で

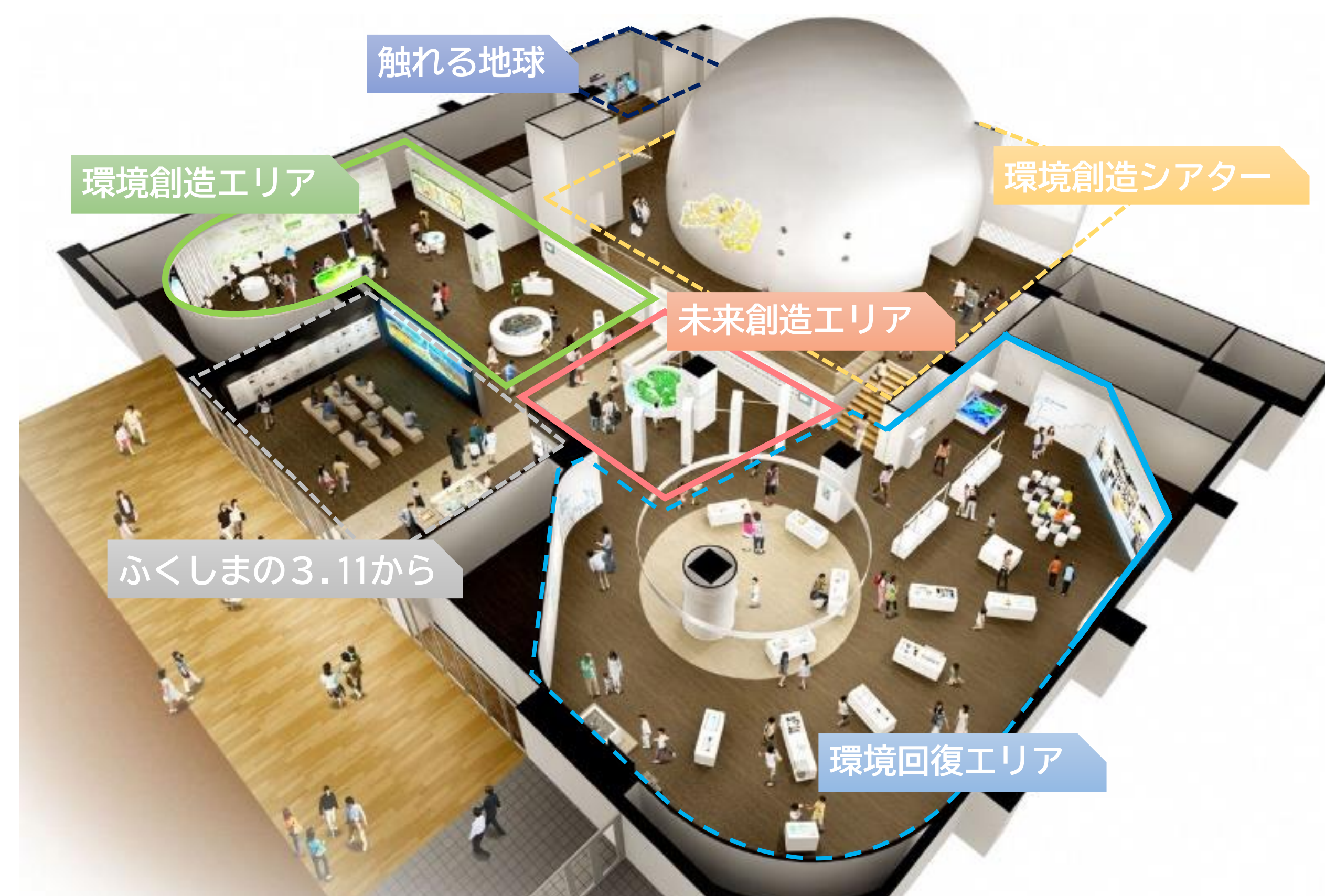
### コミュタン福島 来館者数等

2016年7月21日にオープン後、2017年度～2019年度は毎年9万人を超える来館者を迎えており、目標である年間総来館数の8万人を達成している。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により来館者は44,260人と減少した。2021年度は60,631人、2022年度は71,771人（オンライン利用も含む）と前年度に比べ増加傾向にあるものの、コロナ禍以前の来館者数までには至らない。

また、2022年度の福島県内小学校の利用割合は約50.2%（213校が来館）となる。引率教諭からは、“東日本大震災の記憶がない子ども達にもわかりやすい内容だった。放射線についても楽しく学べた”、“震災時の記憶がない児童がほとんどで、福島で何が起こり、どう立ち向かって行ったかを伝える必要があると思う。”、“ごみの量や平均気温の上昇など、地球温暖化に関わる展示を見て、環境問題についての意識を高めることができました。”との感想を頂いている。



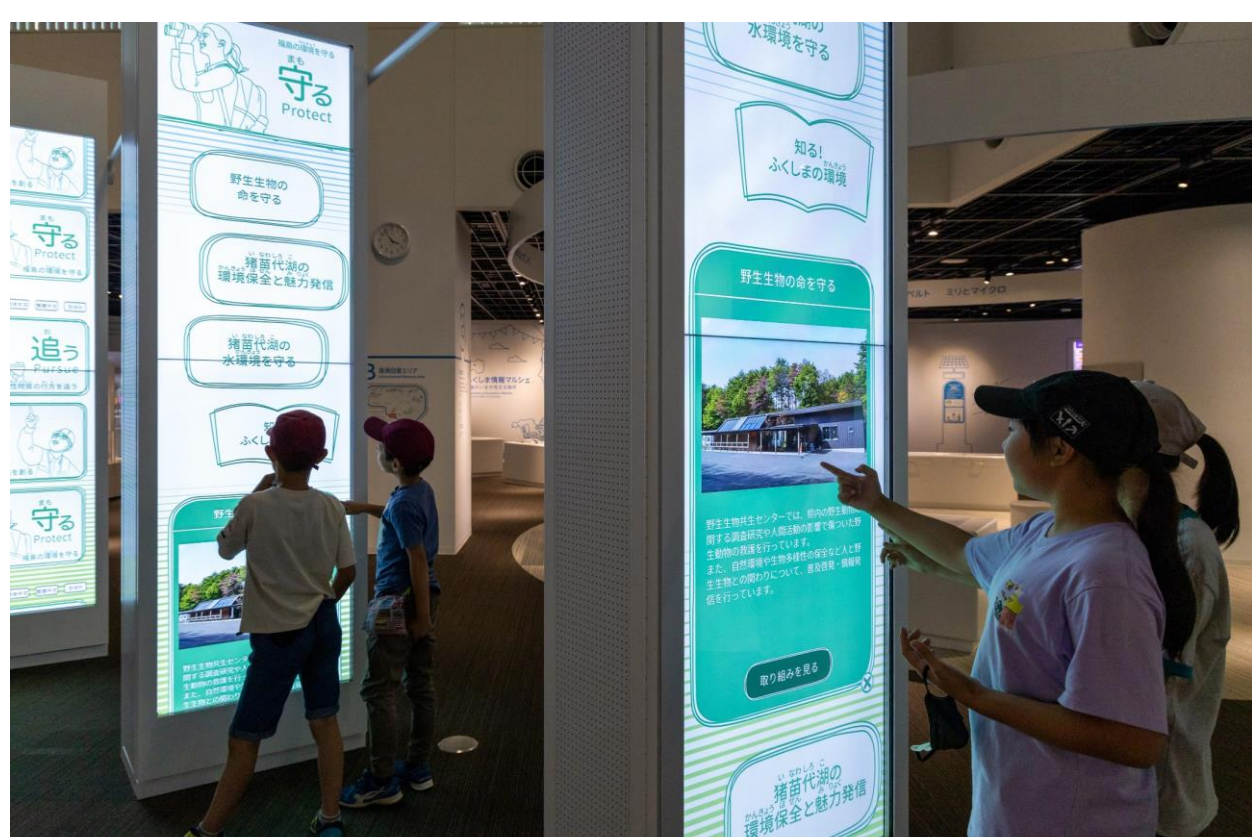
コミュタン福島来館者数(2016.7.21～2023.3.31)



コミュタン福島 展示室

### コミュタン福島 リニューアル

コミュタン福島で福島県の環境回復と創造に向け、来館者一人ひとりが展示物を見て体験することにより、現在の環境問題に対して「自分でできることは何か」をそれぞれの立場から考え、「自分事化」する視点を育むとともに、日常生活の中で自らの行動に反映するきっかけとなるよう、展示内容をリニューアルをした。



#### 未来創造インフォストリーム

環境創造センターが取り組んできた研究などについて「放出された放射性物質の行方を追う」「持続可能な未来を創る」「福島を守る」の3つのテーマで紹介している。タッチパネル形式のデジタルサイネージで気になるテーマをどんどん深掘りすることができる。



#### エネルギークリエイター

再生可能エネルギーと地形との関係を砂場を使って体験する。砂場で発電したエネルギーは壁面に送電され、CO<sub>2</sub>削減に向けた再生エネルギーについて興味関心へつなげている。